

東殿山城(古城-赤谷山城), (新城-東殿山城, 犬鳴城, 気良城)

(郡上市八幡町鳥谷)

東殿山城(とうどやまじょう)は、現在の岐阜県郡上市八幡町鳥谷に存在した戦国時代の山城である。東殿山(赤谷山)に築かれた城であるが、この山には二つの城があり、西方の峰の城を古城(赤谷山城)、東方の峰の城を新城(東殿山城、犬鳴城、気良城)とも呼ぶ。

概要

新城は海拔 520 メートル(比高約 300 メートル)の東殿山山頂にあり、東西・南北約 30 メートルの四辺形を成している。東と西は岩壁がそそり立つ天然の要害、北は急斜面で攻めるに難い。西側や北側には石垣の一部が現存している。

歴史

古城は応永 16 年に、東氏の 6 代目、篠脇城主東益之によって気良荘赤谷山に築かれた。益之が篠脇城から移り居城にしたとも言われるが、一時的なものか、気良・和良・下川等の要地を押さえる支城だったと見られる。

新城は天文 10 年(1541 年)に東氏の 13 代目、美濃国郡上郡篠脇城主東常慶により築かれた。天文 9 年(1540 年)、同 10 年(1541 年)と二度にわたり越前朝倉氏の侵攻を受けた常慶が、篠脇城では郡上防衛に不十分と知ったために築城したもので、子の常堯を置いて守備させた。

永禄 2 年(1559 年)8 月 1 日、常堯は東殿山城を訪れた支族で木越城主の遠藤胤縁を、家臣に命じて殺害した。胤縁の弟で鶴尾山城主の盛数は、かねてから宗家にとって代わろうと考えていたため、弔い合戦を大義名分として兵を挙げ、8 月 14 日に陣出して東殿山城を攻めた。10 日間の防戦の末、8 月 24 日に城は炎上し、常慶は戦死、常堯は飛騨に逃げ落ちて、東殿山城は落城した。城の東側の谷はこの戦いで兵が転げ落ちたことから、今でも「地獄谷」と呼ばれている。また、赤谷川の水が赤いのは、落城した際の戦死者の血が今でも流れているためだという伝説がある。

Wikipedia による

